



第9回市民フォーラム

優秀作文集

地域医療検討会

2018.1.27

「ありがとう」という言葉は今回の医療講座でもっとも大切だと思った言葉です。

「ありがとう」という言葉を心の底から思い言うことは、相手をやる気にさせ、うれしい気持ちにさせます。そして特に、医者という人の役に立つ仕事では、この言葉が一番うれしいと思います。なので、僕は「ありがとう」という言葉を心の底から思い言えるような大人になりたいです。

医療講座で、これから先の未来は君達が作っていかないといけないと言われて、少しドキツとしました。それとともに、不安も少し出ました。それは、医療に関して全く興味がなく、これから先も医療崩壊するおそれがあると初めて知ったからです。そして、医療があることが西脇市民が住みやすくなり、西脇市が豊かになることと聞きました。しかし、僕達西脇市民は何をすれば良いのでしょうかという疑問に僕は答えることができなかつたです。それは、医療はずっと西脇市にあるものだと思ひ込んでいたからです。そして、僕にできる事は、間近にいる人に医療に関しての話をしたり、病気になる必らず西脇市の病院に行つて診てもらい「ありがとう」と言うような事を心がけたいです。

この地域医療講座で、医療に関して全く興味がなかつた僕が西脇市のために何ができるか、医療崩壊が進んでいること、「ありがとう」の大切さなどを考え学ぶことができて良かったです。

今まで知らなかったたくさんを知ることができました。自分が住んでいる町であるのにもかかわらず、何も知らなかった自分を情けなく思いました。

医者の数が減っていること、医療崩壊に近づいていること・・・こんなにも大変な状況になっているなんて考えたことがありませんでした。大きくなるにつれて、だんだんこの問題について考えていくべきだと思いました。

私は、今まで病院で待つ時間が長いのがすごく嫌でした。お話を聞いて、お医者さんは救急の患者さんを診たりしているんだとわかり、そんなことを思うべきではないと今になってやっとわかりました。人の命を救うのは、すごく気力を使うと思います。それなのに、自分の時間を削ってまで私たちを診てくれる人がいるということを決して忘れてはいけけないと思いました。私も、人の命を救えるような、人の役に立てるような仕事がしたいと改めて思いました。

これからは、私たちが西脇市の医療を守っていかなければなりません。そのことを十分自覚して責任を持って生きていきたいと思えます。そして、お医者さんの数が増えて、みんなが暮らしやすい町になってほしいです。

これからも、このお話を忘れずにしていきたいと思えます。私も、自分のことより相手のことを先に考えられるような人になって、少しでも人の役に立っていけるように頑張りたいです。

地域医療を守るために

西脇東中学校 三年 谷 七星

私は中学二年生の時に、トライやる・ウィークで西脇病院に行きました。私はそこで、西脇病院が「地域の宝」と呼ばれていることを初めて知りました。そして、小児医療を守る会や市民の会などの方々、病院を守るために活動されていることも教えていただきました。

私は、小さい頃から今まで、小児科だけでなく内科や整形外科などたくさん先生に診察してもらい、薬を出してもらったことで元気に暮らすことができています。そして、たくさん先生方にとっても感謝しています。

しかし、私は病院が医師不足で困っていることは知りませんでした。ただ私が病院に行くだけで、先生や看護師の方、薬剤師の方、検査をしてくださる方、受付の方などたくさんの方が動いていることが少しあたりまえになってしまっていました。でも、医師不足で困っていることを知ったので、診察してもらったらしつかり「ありがとうございます」と言えるようにしたいです。

私は小さい頃から、看護師になることが夢です。看護師になることは、決して簡単なことではないと思うけど、将来は小さな子からお年寄りの方まで全ての方に、たくさん優しい言葉をかけたり、看護師にしかできない心のケアができるようになりたいです。

そして、医療不足で困っている西脇市の子どもたちに、「私もあんな看護師になりたい」「西脇の病院で働きたい」と思ってもらえるようにしたいです。西脇の地域医療を守る一つの力になれるようにしたいです。

出前授業を終えて

西脇南中学校 三年 緒方 碧

私は今日この授業を受けるまで、西脇市民病院が深刻な危機にさらされていたということを全く知りませんでした。「一つの科に一人や二人しか医師がいない」「小児科の入院の受け入れができなくなった」このような事態になっていたこと。そしてそれが私たちが小児科にお世話になっていた時に起こっていたことに驚きました。そしてもっと驚いたことは、解決するために団結し立ち上がったのが、私たちのお母さんたちだったことです。

私がお母さんの立場だったら、きっと危機感は覚えても実際には行動に移すことができないと思います。「病院はあつてあたりまえ」たとえこのような事態が起こっても「病院がどうかにかしてくるだろう」と考えるからです。このような無関心こそが住民の意識の低さとなって表れたのではないでしょうか。

社会科の学習では、当時この問題に取り組んだ人々の多くが「病院は市民の宝」と語っておられたことが印象的でした。たしかに私たちは、病院があるだけで大きな安心です。そして、実際に大切な命を救ってくれる存在です。日々の生活から切り離すことができないもののはずです。だからこそ、守つていかなければならないのは、私たち市民なのだとは強く感じました。

私たちの暮らす西脇市はとても温かい町です。多くの人が様々な形で病院や地域の暮らしを支えてくださっている。今回の出前授業を通して実感できました。改めてこの町が好きになりました。誰かが誰かを支え守られ、今の私たちが生きています。これまで以上に命を大切にしてこれからも生活していきたいと思いました。

出前授業を受けて

西脇南中学校 三年 下原 咲彩

私たちにとって身近な存在の西脇市民病院。しかし以前は、深刻な医師不足、医師の過酷な労働環境といった問題に向き合い続け、それを解決するために行動を起こされた方がいらっしやったことを、私は今日初めて知りました。

帰宅して母に授業のことを話し、西脇病院の小児科を守る会について尋ねました。母はその取り組みを知っており、会の行動に賛同して署名したそうです。

また、「今のままではいけないと気づき、誰かが声を上げなければいけないと実際に行動に移してくださった方々がいる。そのおかげで、病院の抱える問題に気付くことができた。このことを通して、私自身も、今診察が必要かを考え病院を利用するようになった。同じように行動を見直すようになった人も多いと思う。」そう母は話してくれました。

私も母の話に共感し、西脇病院を救った方々の意志の強さを改めて感じました。

私たちが大人になって子どもを持った時、この地域の医療はどのような状態なのでしょう。もしかすると、今以上に病院や医師が増え、診察科が増えていくかもしれません。しかし、また新しい課題が起こり、医師が減少していくかもしれません。その時、次に声を上げ、地域の方々と協力して行動に移すのは私たちの役割なのではないでしょうか。

今回の出前授業は、自分たちの暮らす町の将来について考えるきっかけになりました。私や地域の人たちが安心して暮らせるように、様々なことに関心を持ち、今回学んだ出来事のような課題が起こった時には、自ら考え、協力し実際に行動が起こせるように成長していきたいと思いました。そして、自分たちが暮らす町をみんな協力して守っていけるような町であって欲しいです。

私の町の地域医療

黒田庄中学校 三年 村上 夏菜

私は今回、地域医療の方からの講演をお聞きして、その活動の一つとして挙げられたリング冊子を見て驚きました。私や私の弟が幼いころに真夜中に体調を崩して、母が焦りながらそのリング冊子を読んでいたのを思い出したからです。私は、リング冊子に助けてもらった一人だったのです。すごく感謝しています。あの冊子がなければ、母もどうすればいいかわからず、対処に手間取ったことと思います。もしもの時に適切に対応するための助けとなるこの冊子は、世の中のお母さんにとって、本当にうれしいものだと思います。私はこの冊子がボランティアの方の手によってできたものであることを初めて知りました。こんな画期的なアイデアで子ども達を救っているボランティアの方々には尊敬の念を抱きました。その他の様々な活動もお聞きして、本当に幅広く活動され、大きく貢献されていることも知りました。しかも、ボランティアに参加している方は、子どものいるお母さん方であることが驚きでした。実際に自分で声を上げて、自分から行動に移すということはとても勇気と時間のいることだと思います。市民の行動力が市を変えていくのを目の当たりにした気分でした。

さらに、病院やお医者さんの存在は決して当たり前ではなく、維持するために、必死な努力が行われているということも初めて知りました。西脇市の医療の現状を知って、これはもっと市民全体がよく考えるべき問題だと思います。今まで病院と関わったことのない人なんていないと思います。そんな身近な存在だからこそ、支えてもらえばかりではなく、せめて少しでも病院やお医者さんの負担を減らせるような患者になることが大切だと思います。講演してくださった方は、「自分の症状をあらかじめ詳しく紙に書いておいて医者に渡すだけでも医者は診察しやすくなる」と言われていました。患者である私たちにもできることがあるのです。受けるばかりではなく、自分から返していくことも大切なことだと思います。

講演を聞いている中で、地域医療を守ろうとされている方々の行動力や努力でもたらされた成果に何度も驚かされました。なにより一番感じたことは、「一人の力は思ったよりも大きい」ということです。ボランティアの方の一人一人の行動が、確実に社会を変えていることを教えてもらいました。「自分が一人で動いたところで、何も変わらない」、そんな言い訳はもう通用しません。私もこれからの生活で社会を変えられるような行動力を身につけ、発揮していけたらと思います。